

## 雲仙岳の火山活動解説資料（平成 24 年 3 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 3 月の活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

噴気活動は低調に経過し、白色の噴気が時々観測される程度（最高高度は 20m）でした。18 日以降は遠望カメラ障害のため噴気は確認できていません。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 6 回（2 月：6 回）と少ない状態で経過しました。震源は、主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

#### ・熱活動（図 6、図 7）

3 月 22 日に実施した現地調査では、前回（2010 年 8 月 31 日）と比べて熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。



図 1 雲仙岳 噴気の状況（3 月 10 日、野岳遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 4 月分）は平成 24 年 5 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、九州大学、国土地理院及び長崎県を經由した九州地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

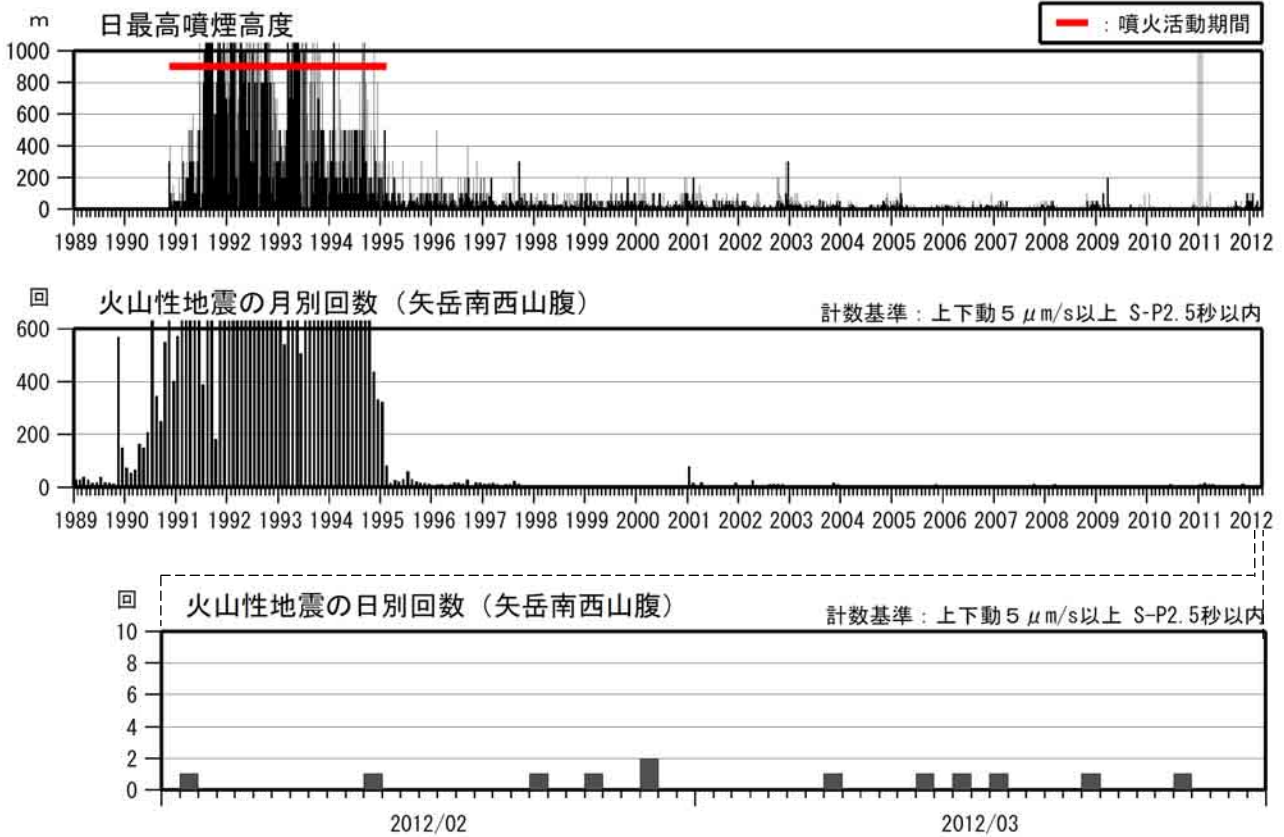


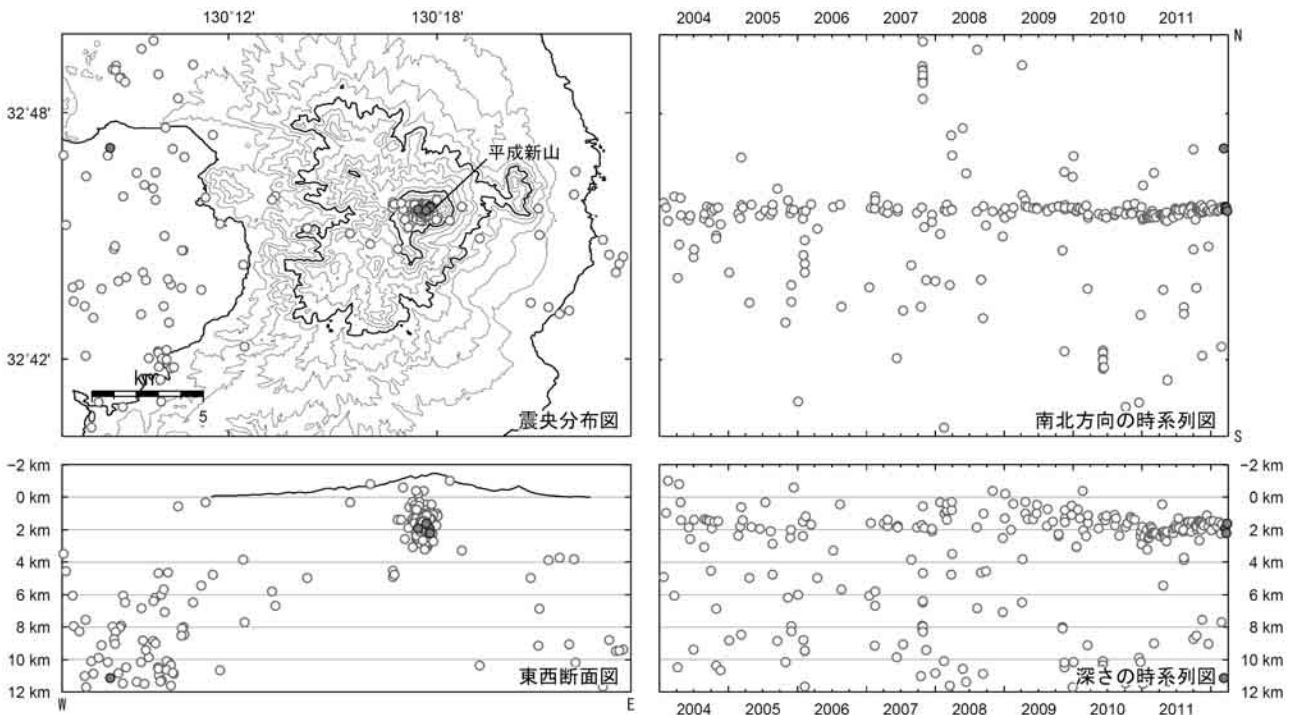
図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2012年3月）

噴気活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

<3月の状況>

- ・噴気活動は低調に経過しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測。



- : 2012年3月の震源
- : 2004年1月～2012年2月の震源

図3※ 雲仙岳 震源分布図（2004年1月～2012年3月）

<3月の状況>

震源は、主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

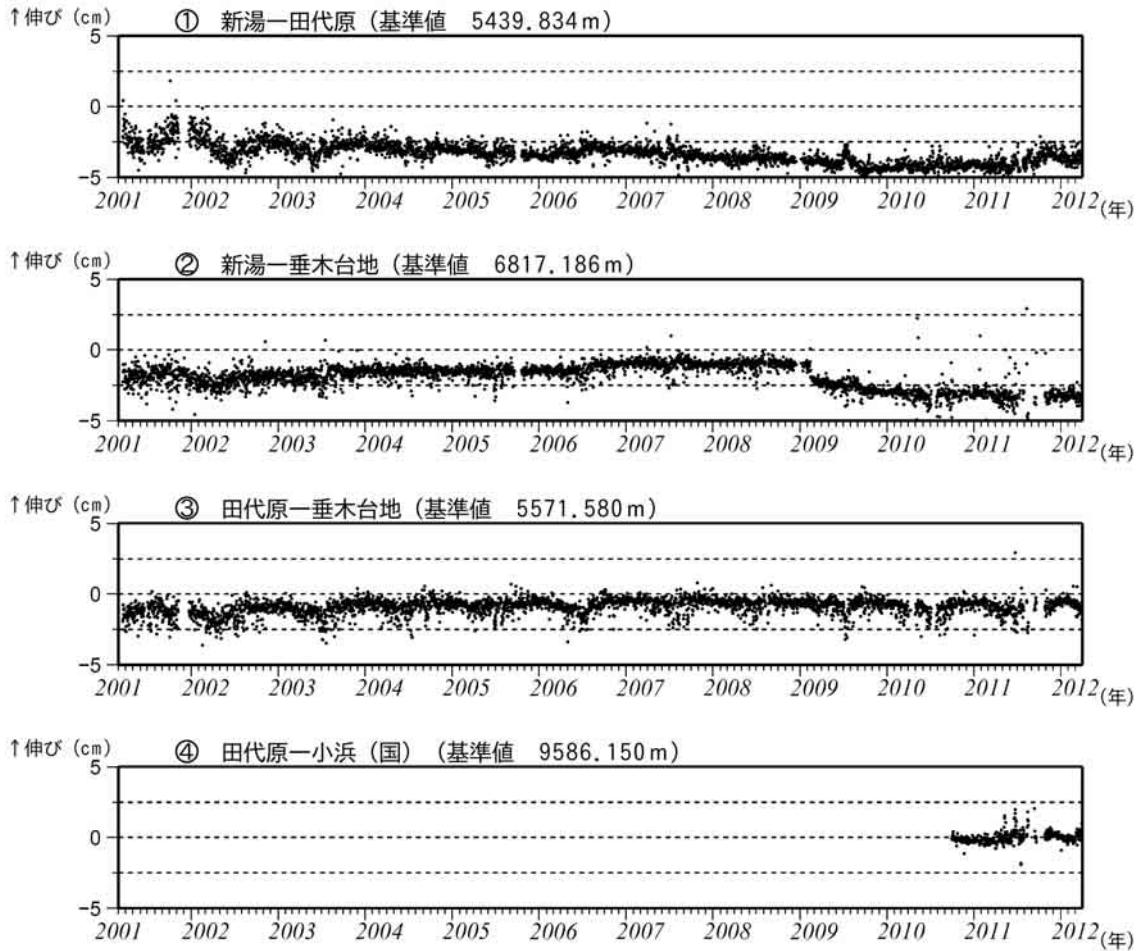


図4※ 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2012年3月）

< 3月の状況 >

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図5の①～④に対応しています。

①、②の基線にみられる2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。また、掲載する基線を一部追加しました。

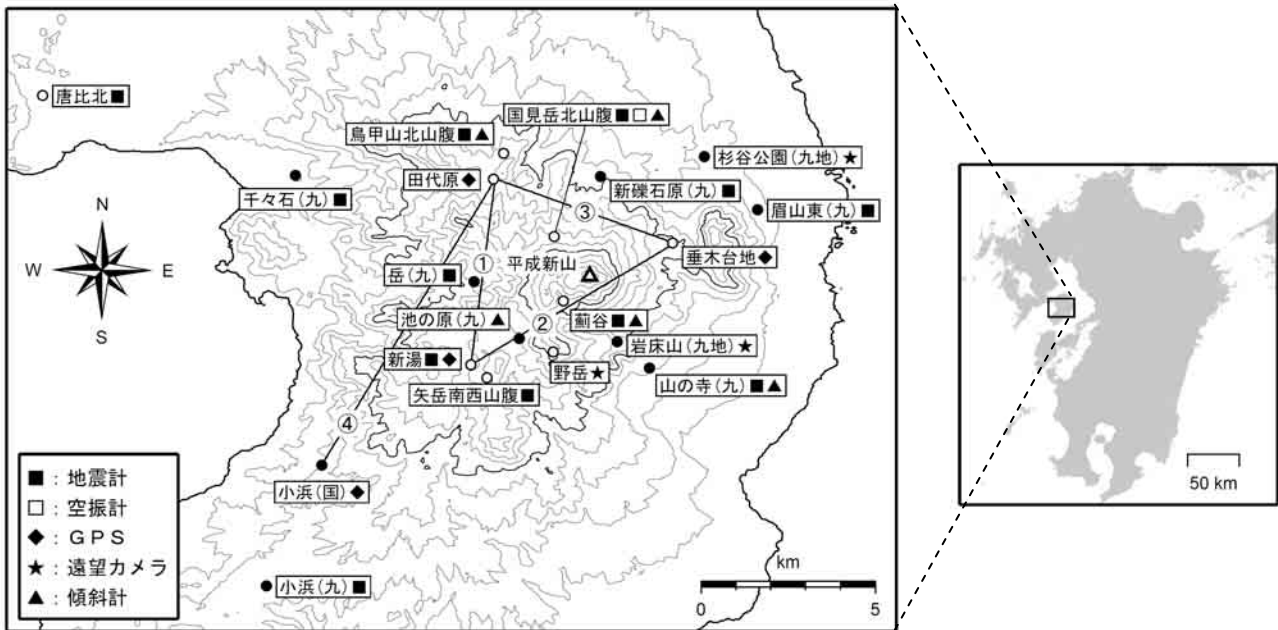


図5 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院、(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学



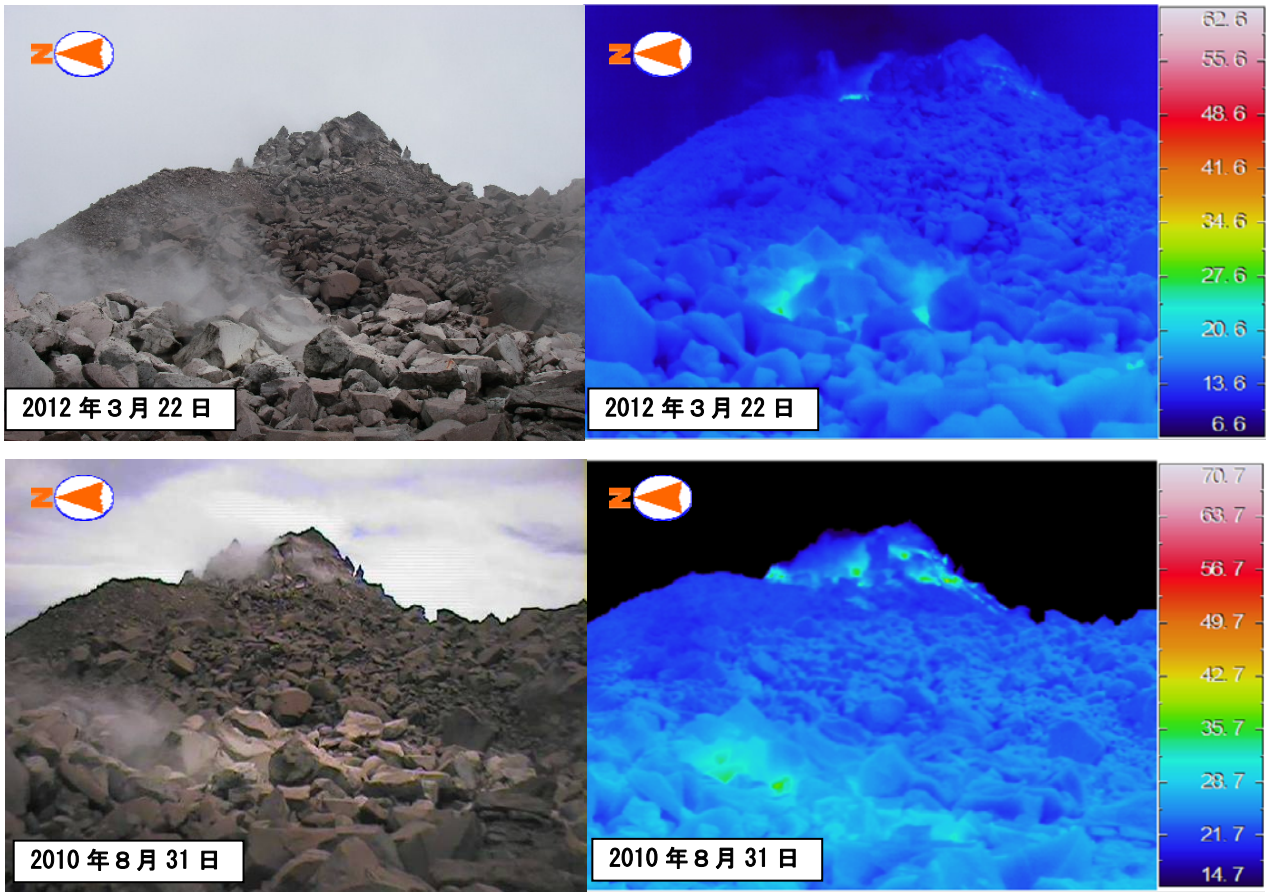


図 6 雲仙岳 赤外熱映像装置による平成新山山頂部の地表面温度分布（TD1 から撮影）  
 前回（2010 年 8 月 31 日）と比べて熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。  
 赤外熱画像の温度表示レンジは、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

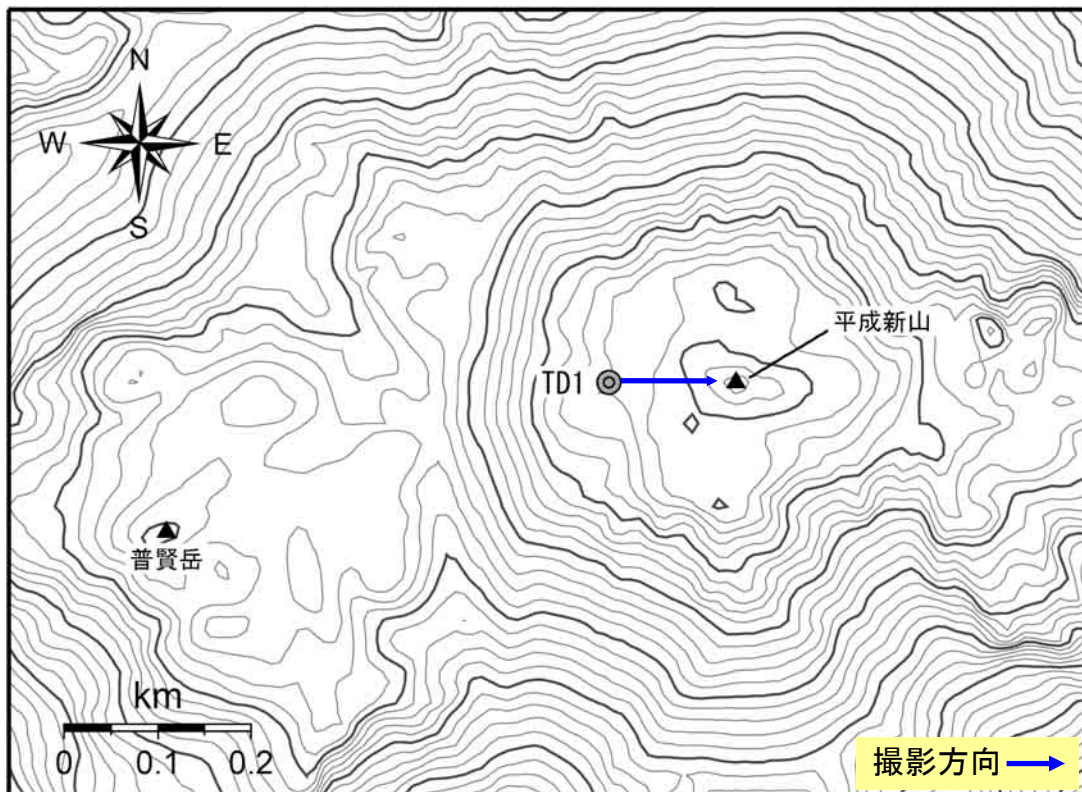


図 7 雲仙岳 赤外熱映像観測点配置図